

令和3年度第2回青森市地方独立行政法人評価委員会 会議概要

1 開催日時

令和3年7月27日(火) 15時00分～16時25分

2 開催場所

青森市役所議会棟4階第1委員会室

3 出席者

(1) 委員

委員長 若井 敬一郎
委員長職務代理者 内山 清
委員 今 孝 彰
委員 佐々木 知彦
委員 三浦 朋子

※欠席委員なし。

(2) 事務局(青森市企画部)

企画部長 織田 知裕
企画部次長 舘山 公
企画調整課長 松島 豊
企画調整課主幹 工藤 康彦
企画調整課主査 中野 理緒

4 次第

開会

(1) 公立大学法人青森公立大学令和2年度業務実績評価について

(2) 公立大学法人青森公立大学第2期中期目標期間業務実績評価について

閉会

5 会議概要

(1) 公立大学法人青森公立大学令和2年度業務実績評価について

○事務局から資料1-1～資料1-3について説明。

○委員からの主な質疑・意見

項目	質疑・意見	事務局
全体評価	大学院について「志願者の確保に向け、教育の実施体制及び内容の検討を求める」とあるが、青森公立大学と当評価委員会が共通認識を得られるように、求める具体的な取組を記載してほしい。	履修証明プログラムの申込みが1名だったことなどを踏まえ、より実効性のある取組を求めるものとして記載したところであるが、青森公立大学へのヒアリング等により、具体的な内容を

		評価書に加えられるかどうか、検討する。
--	--	---------------------

○委員からの意見等を基に評価書を修正することとし、文言は委員長に一任することを決定した。

(2) 公立大学法人青森公立大学第2期中期目標期間業務実績評価について

○事務局から資料2-1～資料2-3について説明。

○委員からの主な質疑・意見

項目	質疑・意見	事務局
全体評価	○教員の人事評価について、評価結果を活用して大学組織の活性化を図ることを期待するという記載を入れてほしい。 ○人事評価については、厳しい結果に対する教員の流出が懸念されるため、慎重に実施する必要がある。	性急な実施を避けるため「早期の」という表現を削除するとともに、「組織の活性化を図る」等の内容を記載するよう検討したい。
全体評価 地域貢献	○スタートアップラボに関しては、コロナ禍が終わった後のデジタル化社会の進展に対応した取組が必要である。 ○学生も小さなプロジェクトを動かしながら学ばないと技術は身につかないと思う。 ○大学で学ぶ技術は社会の変化や年月の経過により古くなることから、その当時の最先端技術を学ぶより、技術や経済の仕組みを実地で学ぶことが人材育成につながると思う。 ○大学に対しては、教育のあり方、教育方法の土台をわきまえ、時代の変化に鋭敏に対応できる学生を育成することを求めたい。	ポストコロナに対応できる取組の実施について、全体評価及び地域貢献に記載するよう検討したい。
経営・財務内容の改善	各委員から評価されている効率化係数1パーセントの予算削減という表現を記載しないのはなぜか。	運営費交付金の1パーセント削減は、市が指示し大学が実施しているもの。係数そのものではなく、大学が業務の効率化・簡素化に継続して取り組んできたことを評価する記載内容としている。

○委員からの意見等を基に評価書を修正することとし、文言は委員長に一任することを決定した。